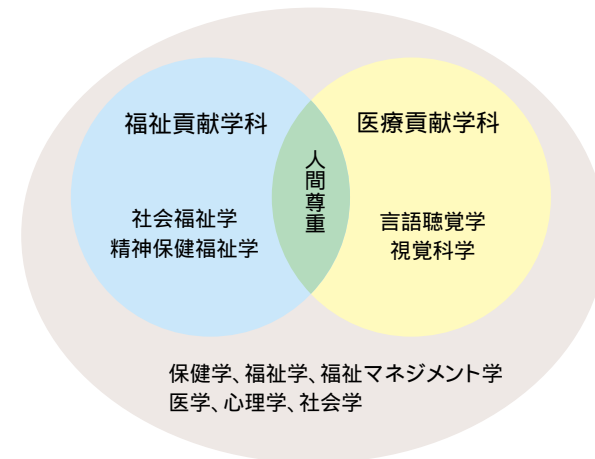


# 医療福祉学部の新設 (計画中)

文化創造学部のある星が丘キャンパスに、2番目の学部として平成16年4月の開設をめざし、医療福祉学部の設置計画を推進しています。医療福祉学部は、本学の「違いを共に生きる」を実践的に具体化しようとするものです。この学部は、福祉貢献学科と、言語聴覚学専攻と視覚科学専攻からなる医療貢献学科の2学科から構成されます。

医療福祉学部の教育理念の概念図



## 医療福祉学部の設置の目的

20世紀の後半に急速に進展した高度産業社会と大量消費社会は、日本人に未曾有の物的豊かさをもたらしました。しかしこのような自由社会の実現は、将来に向けた新たな問題をばらんでいます。

その一つは、世界のどの国もかつて経験したことのない超高齢化社会。世界一を誇る平均寿命は、一方で慢性疾患の罹患率の上昇、生活習慣病の後遺症に代表される副次的な身体障害・精神障害を持つ患者を急激に増加させつつあります。

この対応として、医療の充実だけでは十分とは言えません。疾病や障害を可能な限り予防する保

健の充実や、慢性疾患、根治不能な障害を抱えながらも、それらと上手に付き合いつつ、豊かな生活を実現するための援助を提供する福祉の充実が不可欠です。

2つ目は、自由社会が本質的に内包している危険です。自由社会は実力・競争社会でもあるため、健全な成人にとっては自己決定権を最大限に保障されるという点で歓迎すべき面もあります。しかし子どもや高齢者、身体障害者、精神・発達障害者など、何らかのハンディキャップを負った社会的弱者の自己決定権が阻害される危険性があります。

このような人々が、人権尊重の観点から健全な人と格差なく、質的豊かさに満ちた生活を享受し得る社会体制の実現は、21世紀前半の日本社会の重要課題に挙げられます。

ハンディキャップを持つ人々が健常者と同等の自己決定権を行使し、生活の質的豊かさを追求する社会は、簡潔に言えばノーマライゼーションの達成された社会と言えるでしょう。

ノーマライゼーションやバリアフリー社会の理念に対する理解は、近年富に広がっています。しかしその理念を実現するためには、現実的な体制・制度の整備と共に、そこで実践的に活動する人的資源が必要不可欠です。

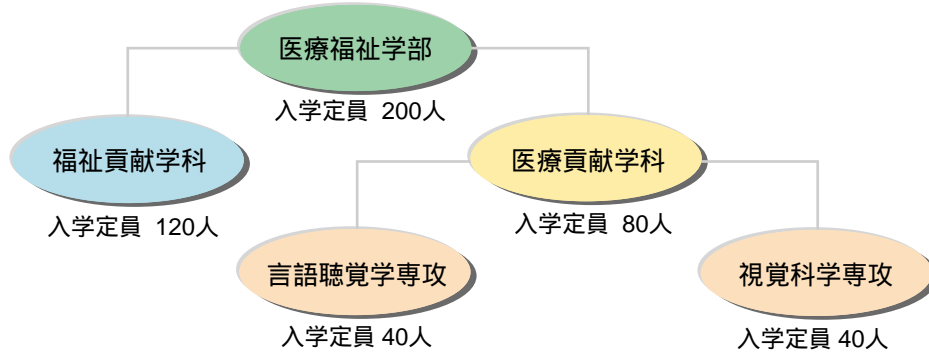
## ノーマライゼーションを推進する医療福祉学

これまで医療、保健、福祉の分野は、独立性を保ちつつ、各分野における研究・実践を蓄積すると共に、相互連携によって福祉社会に多大な貢献を果たしてきました。中でも疾病や障害の治療を行う医療は重要な役割を果たし、その技術も飛躍的な進歩を遂げています。

しかし21世紀は、治療以上に慢性的な疾病や障害を自己存在の様相の一つとして捉えた上で、質的に豊かな生活を実現することへの社会的要請が高まってくるでしょう。これは医療、保健、福祉を取りまく状況がモラ（治療）中心からケア（予防と援助）中心へとシフトすることにはほかなりません。

そのため、従来のように医療、保健、福祉が独立性を保ちつつ連携を図るだけでなく、さらに緊密な関連性を実現することが必要となります。つまり医療、保健、福祉を「人権尊重」を中心として統合し、総合的なケアやエイドを実践する「医療福祉」が、極めて重要な分野としてクローズアップされてくるでしょう。

21世紀の人間性豊かな社会を実現するノーマライゼーションの推進には、医療福祉学が指導的役割を果たすものと考えられます。



## 教育課程の特色

### 福祉貢献学科

「共生社会の担い手としての福祉マインドを習得し、年齢、性、健康地域、国籍等の人間が生活する上で基本となる事項で何らかのハンディキャップを負わされ、社会的に排除されている人々の自立と自己実現を支援しうる知識・技能の習得」を教育理念として、医学、心理学、社会学の基礎的理解をベースに、社会福祉学、精神保健福祉学、福祉環境創造の専門科目を履修して、医療福祉に貢献できる人材の育成をめざします。

「社会福祉士」や「精神保健福祉士」などの専門職受験資格のみならず、幅広い視点から教育・研究を行うのが特徴です。

### 医療貢献学科

「医療貢献学科」は、「コミュニケーション障害者の社会的参加支援の技能の習得」の教育理念のもとに、保健学、福祉学、福祉行政学、福祉政策学、医学、心理学、社会学の基礎的理解をベースに、「聴く」「話

### 医療貢献学科 言語聴覚学専攻

「言語障害者および聴覚障害者の社会参加支援の技能の習得」を中核とし、本学の建学の理念である「違いを共に生きる」を医療福祉の分野で実践的に実現していく人材を育成することをめざします。

これまでの言語聴覚障害学の学問分野を超えて、言語および聴覚の生理・心理・認知・発達について専門的な知識と技能とを取得できることが本専攻の特色であり、従来の言語聴覚士養成学校と大きく異なることとなります。

### 医療貢献学科 視覚科学専攻

人間のコミュニケーション能力のうち極めて重要なモタリテイである視覚全般について高い専門的理解を有し、人間の脳研究の一翼としての視覚科学の専門家、あるいは社会生活を営むに当たって、極めて重大なハンディキャップである全盲を含めた視機能障害について専門的知識を有し、その診断、治療・訓練、コミュニケーション支援に関わる社会的場面において、専門家としての中心的な役割を担い得る人材の育成をめざします。

従来の視能訓練士の職能範囲だけでなく、必要に応じて新しい検査・診断、訓練の技法や技術を開発できる知識と技能の修得をめざします。